製銑部会委員

(昭和37年12月現在)

部会長	日本鋼管株式会社	(川崎)	林　敏
委員	八幡製鉄株式会社	(本社)	小菅　高
	〃	(八幡)	辻畑　敬治
	〃	(戸畑)	福田　宣雄
	〃	(技研)	児玉　惟考
	富士製鉄株式会社	(本社)	米沢　泰三
	〃	(室蘭)	横山　俊造
	〃	(釜石)	青木猪三雄
	〃	(広畑)	芹田　勇
	日本鋼管株式会社	(本社)	萩原　興吉
	〃	(川崎)	稲原　敏雄
	〃	(鶴見)	池上　平治
	〃	(水江)	藤井　行雄
	川崎製鉄株式会社	(本社)	矢野　武夫
	〃	(千葉)	原田　静夫
	住友金属工業株式会社	(本社)	山本　信公
	〃	(支社)	俵　隆治
	〃	(小倉)	永見　勝茂
	住友金属工業株式会社	(和歌山)	河西　健一
	株式会社中山製鋼所		菊池　正
	尼崎製鉄株式会社		藤井　成美
	株式会社神戸製鋼所		松尾　英一
	大阪製鋼株式会社		堺　千代次
	東海製鉄株式会社		高木　直
	日新製鋼株式会社		佐々木　進
	〃		渡辺　五郎
	矢作製鉄株式会社		多田嘉之助
	日本学術振興会		三本木貢治
幹事	日本鋼管株式会社	(本社)(兼)	萩原　興吉
	通商産業省重工業局		中島　淳夫
	日本鉄鋼連盟		飯島　健一
	日本鉄鋼協会		田鍋　力

製銑部会報告書編集委員

昭和37年10月30日　報告書「製銑技術の進歩」の編集のために部会委員全員(前掲)に編集委員を委嘱し，次の諸氏に編集幹事を委嘱した．なお本文の執筆分担は目次に示した．

製銑部会編集委員

部会長	日本鋼管株式会社(川崎)	林　敏
委員	前掲委員参照	

製銑部会報告書編集幹事

部会長	日本鋼管株式会社(川崎)	林　敏
幹事	八幡製鉄株式会社(本社)	坪井　登
	富士製鉄株式会社(本社)	米沢　泰三
	日本鋼管株式会社(本社)	萩原　興吉
	川崎製鉄株式会社(本社)	矢野　武夫
	住友金属工業株式会社(支社)	池田　義孝
	通商産業省重工業局	中島　淳夫
	日本鉄鋼連盟	飯島　健一
	日本鉄鋼協会	田鍋　力

製銑部会開催記録

第7回～第18回にわたる製銑部会の開催経過は次のとおりである．

部会回数	開催年月日	場所
第7回	S. 32. 7. 23～24	日本鋼管(東京本社)
第8回	S. 32. 22. 19～21	八幡製鉄所(八幡)
第9回	S. 33. 3. 28～29	日本鉱業会講堂(東京)
第10回	S. 33. 8. 20～22	富士製鉄(室蘭)
第11回	S. 33. 12. 4～5	学士会館(東京)
第12回	S. 34. 3. 25～27	神戸製鋼(灘浜)
第13回	S. 34. 10. 13～14	鉄鋼連盟(東京)
第14回	S. 35. 4. 20～22	富士製鉄(釜石)
第15回	S. 35. 10. 26～27	鉄鋼連盟(東京)鋼管(川崎)
第16回	S. 36. 7. 4～6	住友金属工業(和歌山)
第17回	S. 36. 11. 13～14	鉄鋼連盟(東京)
第18回	S. 37. 6. 12～14	八幡製鉄所(八幡)

部会の議事は原則として講演，共通議題，および自由議題にわかれ，講演においては，開催地事業所の紹介，あるいは比較的大きな問題の，技術検討の結果が報告された．共通議題には，その時期に応じて共同研究のテーマが選定され，始め高炉作業月報諸資料の計算基準および定義，焼結試験方法，高炉の標準能力と炉内容積等が引きつづいて討議され，結論を得た．さらに第8回では熱勘定方式の統一，第13回には高炉原料の分析試料採取方法が検討され，さらにその後，複合送風，高炉大型化にともなう問題点，鉱石の破砕篩分，焼結機の新設改修の状況などが共通の問題点として各事業所の検討資料が